

花・緑・水の田園文化都市“三田”探訪

ウォッチング

2025年11月21日(金)

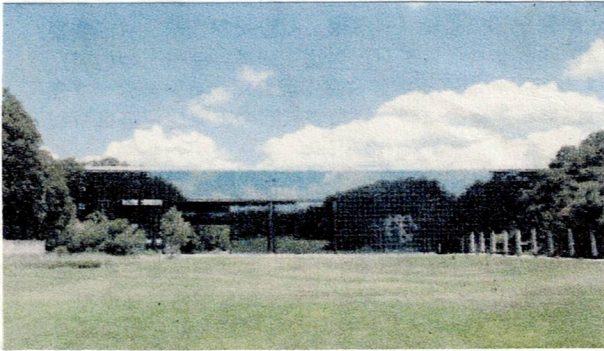
案内人: 萩 彰(会員)

摂州三田は、海賊大将の異名を持つ戦国武将・九鬼嘉隆所縁の九鬼氏が江戸初期から明治維新まで統治した三万六千石の城下町。郊外の農村地帯は、三田牛・三田米・椎茸・黒豆などの農作物・特産物に恵まれている。

“三田”の地名由来は、金心寺の弥勒菩薩座像胎内から「当地一帯を松山の庄と号す。これを金心寺三福田（恩田・敬田・悲田）により三田と改める」とあったことによる。

かつての三田市域は長閑な田園風景の広がる典型的農村の様相を呈していたが、1980年代のJR福知山線複線電化による利便性向上に伴い、阪神間の衛星都市としての開発が急速に進んでいる。

三田のキーワードとして、田園文化都市、三田青磁、九鬼一族、小寺謙吉、丹下健三、白洲次郎・正子夫妻、新宮晋などに注目したい。



未来志向の超現代建築“人と自然の博物館”



田園文化都市・三田のランドマークとして捉えた“三田市立図書館”

◇参集地：JR「茨木」駅 9時（時間厳守）

◇順 路：「茨木」9:08⇒9:30「尼崎」9:34⇒10:13「三田」・シャトルバス 10:30⇒10:50 キリンビール神戸工場・丘の上のレストラン 13:50⇒^{バス}神鉄「フラワータウン」～深田公園・人と自然の博物館（外観のみ）～「フラワータウン」⇒「横山」～三田市立図書館・古三田青磁展示室～心月院～三田城跡～旧九鬼家住宅資料館～JR「三田」⇒「宝塚」⇒JR「茨木」・阪急「茨木市」

※キリンビール神戸工場：工場見学・ビール試飲。

※丘の上のレストラン：キリンビール神戸工場に隣接する居酒屋風レストラン。

※人と自然の博物館：21世紀公園都市博覧会（1988年）中枢施設。丹下健三設計の近未来志向の前衛的建築。

※三田市立図書館・古三田青磁展示室：東洋陶磁美術館解説員・吉田恭三さん（会員）による説明あり。

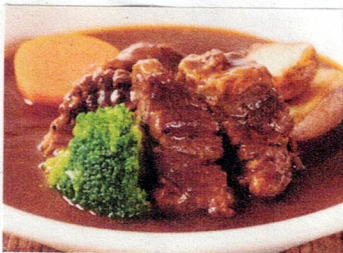
※心月院：三田藩主九鬼家累代菩提寺。白洲夫妻（次郎・正子）の比翼塚は、一見の価値あり。

※三田城跡：本丸が三田小学校、二の丸が県立有馬高校。本丸と二の丸の水濠と二の丸東側の空堀がある。

※旧九鬼家住宅資料館：明治初期築造の全国的にも珍しい擬洋風建築（1階は和風、2階は洋風）。

◇昼の宴：丘の上のビアレストランで、至福のランチ 2,500円（試飲・見学科 500円を含む）をご賞味あれ！

※飲み物は個人払いとする。



牛肉の「一番搾り」ビール煮込み

地産地消の新鮮野菜と自家製パンが大人気！

新鮮野菜・パンのバイキングを毎日ご用意しています。

県下の契約農家が、精魂込めて作った野菜を中心にした「サラダバイキング」。

一番搾りを使用した牛肉の煮込み料理等、こだわりのセットをご用意しています。

安全・安心・新鮮な食材を、是非ご堪能ください。

(HPより)

◇参加費： 無料（会員外は資料代 100円）

◇定 員：12名

◇申込先：「街ing いばらき」代表・阪田浩（080-1436-9881）9月30日（火）締切り

Tel&Fax/072-627-3480 E-mail/ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※本会行事は自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

三田市立図書館

郷土愛を感じさせる図書館！

寄棟の銅板屋根と土色の煉瓦タイルとが豊かな自然に駆け込んだ緑の中の図書館です。
時の流れと共にその重厚さと風合いを増し、

地域の人たちに誇りと愛着が育まれるものでありたいと思います。

また、子供たちからお年寄りまでのすべての人たちが気軽に利用できる開かれた図書館として、

「花と緑と水のまち・三田」の新しい文化拠点・市民の交流の場となることを願っています。

私たちはこの図書館の建設を通して、

地域の歴史と風土に根差した社会的・文化的価値を担う公共建築の具現化を目指しました。



全 景

建築を景観として捉える—緑・光・風をモチーフに—

三田市立図書館は市制 30 周年を記念する事業として、また、漸次整備されつつある田園文化都市・三田の中核となる施設として、三田市の芸術・文化・情報活動の拠点として位置づけられていて、将来の人口増を予想し、21 世紀（10 年後）の市総合計画推定人口 15 万人に対応するものとして計画された。

北摂三田ニュータウンに通じる三田幹線と、公園都市線が分岐する神鉄・横山駅間の交通要衝の敷地沿いには、横山駅・三田幹線を結ぶ横山駅前線（幅員 12m、全長約 180m）も平成 2 年度の完成を目指して目下整備中であり、姉妹都市ブルーマウンテン市に因んでオーストラリア国花・フサアカシアの街路樹が華を添えることになっている。

三田市立図書館は「緑に包まれた親しみ易く明るい図書館」を基本理念とし、敷地内の既存樹木を可能な限り活用して隣接する三田学園の緑の丘陵との植生をできるだけ一致させ、周辺の景観との調和と一体化を図っている。

建物外周部には樹形の美しい落葉高木を配して、夏には涼しげな緑の木陰を冬には明るく暖かな日溜りを提供し、施設に季節感溢れる表情を齎している。また、三田幹線沿いに常緑の高木を効果的に配して車を視線から隠蔽し、将来増大するであろう交通騒音への配慮とし、併せて四季を通じて施設に緑の色彩と安らぎを与えている。

中庭の既存高木群と前面広場中央に配した田園文化都市・三田を象徴するモニュメントは、この施設の二つの核を形成していて、両者は閲覧室の吹抜空間越しに対峙して施設に緊張感と共に潤いと活力とを齎している。

外観は、自然環境との調和、隣接施設への配慮、丘陵地からの俯瞰、遠方からのランドマークの形成、三田市の歴史的風土、外壁保護及び日照調節などを勘案して寄棟屋根とし、周辺と馴染み易い水平線の表現としている。

外装材は、屋根は緑青銅板、外壁は土色珧器タイル割肌仕上を基調として自然と周辺景観に融けこませ、耐久性・維持管理の容易さを重視する一方、経年に従い建物に重厚さと風合いが漸次備わるように配慮している。

内装材は、木材などの天然素材を活かして書架などとの一体化を図り、違和感ない明るい色彩の中に温かみある雰囲気醸し出している。また、建物全般に自然採光・自然通風を積極的に取り入れて、省エネルギー・省資源を考慮した居住性高い堅実な施設としている。

— 一日刊建設新聞（1990. 3. 12）設計メモより —



閲覧室



古三田青磁展示室